

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101554		
法人名	社会福祉法人 清潮会		
事業所名	グループホーム しおさい		
所在地	長崎県西海市崎戸町蛸ノ浦郷17番26号		
自己評価作成日	平成22年2月9日	評価結果市町村受理日	平成 22年 4月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで海の見える場所にあり、景色や環境は懐かしさがある。オープンキッチンとなっている台所からの調理の匂いに誘われるかのように、利用者のほとんどは広いスペースのリビングに自然と集い、職員との会話弾む。家庭的な雰囲気の中で、明るく楽しくゆっくりをモットーに一人一人のできる事をして頂きながら、又、利用者様、職員お互い助け合いご家族様の協力を得ながら、その人らしい日常生活が営めるようサービス提供行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 22年 2月 23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームしおさい”は、蛸浦島・崎戸島・江島・平島からなる崎戸町蛸浦の高台に位置する。ホームの窓からは江島・平島・五島列島が望め、また離島をつなぐ船着場を見下ろす事もでき、ご利用者は故郷からの船の往来やその島姿を眺めながら生活されている。玄関前広場(駐車場)やリビングは日当たりが良く、ご利用者とスタッフが陽だまりの中でのんびりと過ごされている。家事等も職員の動きを見ては、「かせしよか」「手伝うよ」と自然とご利用者も加わり、笑い声の中で生活されている。ご家族から野菜や魚、手づくりのお菓子等の差し入れがあったり、お庭の花の苗をプランターに植えて頂いたり、日々の生活をご家族と一緒に支えておられる。また、近隣の方からも気軽に声をかけて頂き、雨が降れば洗濯物を取り入れるよう知らせて頂いたり、散歩中に迷ってしまったご利用者には「うちに訪ねて来てくれた」と言ってくれる関係となっている。「地域を支え、地域に支えられる関係」を作りたいとのホームの理念が根づいている事が感じられる。意思表示が難しいご利用者にも、表情や仕草からその思いを汲み取ろうと関わっておられるが、更に「別の楽しみはないのか」「ご意向や思いを汲む事ができているのか」「本当にこれでよいのか」と職員全員が常に真意の探求に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を掲げており、地域密着サービスとしての理念は、法人内2施設のグループホームで共有している。 事業所独自としては別に目標として掲げ、全職員で理念を共有して実践につなげている。	理念の実現の為、より具体的な指針としてホーム独自の目標や職員目標を掲げている。「信頼関係」を大切にす為、コミュニケーションを重視しており、職員間では伝達漏れが生じないよう留意している。また、ご利用者とは親しみのある言葉であっても馴れ合いにならない様に、第三者が聞いても不快にならないように配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員全員が、積極的に挨拶などに努めている。又、地域の行事に利用者と共に参加し、地元の人々との交流に津々努めている。	挨拶等の日頃のコミュニケーションを大切にし、地域の方からも気軽に声をかけて頂いている。花火大会や盆踊り、敬老会等の地域行事へも参加している。近くの浅間神社のくんちでは獅子舞等の奉納踊りをホーム駐車場で披露して頂き「しおさいの皆様も同じ浅間町の住民です」との言葉を頂く等、地域の一員となっている	現在、地域行事へ参加しているが、地域の方をホームへお招きする機会がない為、行事内容を検討したいと考えておられる。地域の中での介護の拠点になりたいと、地域貢献の取り組みについても考えておられ、今後の活動に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の他事業所と協働し、出来る限り地域に役立つ事ができるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催毎に、ご利用者お一人ずつのサービスについて報告、話し合いを行っている。そこでの意見を元に、更に職員間での話し合い、サービス向上に努めている。	ご利用者、ご家族、自治会長、西海市担当者、協力医等に参加頂き開催している。毎回、ご利用者個々の生活や介護の状況を具体的にお話する事で、ホームの現状や取り組みを理解して頂いている。「以前は散歩しているのをよく見かけた」とのご意見から、散歩が難しい日も外気浴を行うよう心掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市から「西海市認知症ケア研究会」への委託を受けて、「介護サービス事業者マップ」づくりに参加し、地域の実情等を伝え協力関係に努めている。	西海市役所の担当者とは、電話等にて質問や相談に丁寧に対応頂いており、また運営推進会議でもご意見や情報を頂き、良い協力関係ができています。申請や手続きについては支所にて行っているが、情報交換は市の担当者と直接行っている。法人本部は西海市ではないが、法人と市の連携もできています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」が設置されており、法人内の研修で理解できている。日頃から職員相互で、常に身体拘束となっていないか話し合っている。	法人全体で組織している身体拘束廃止委員会にホームからも参加しており、外部研修や委員会活動に積極的に取り組んでいる。禁句集の冊子を作成され、ケア中の何気ない一言が身体拘束となっていないか具体的に振り返る事もできている。また、不快な臭いも身体拘束に繋がると、臭いゼロ作戦にも取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で「身体拘束廃止委員会」を設けており、その中に虐待防止も含まれており全職員が研修を受け、その都度研修報告書を提出しており、常に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方が今の所いない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際、家族に重要事項説明を十分に行い、玄関に提示している。 不安、疑問等がある場合には、その都度電話や面会時等いつでも説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見・要望はいつも気兼ねなく表せるよう接しており、又、施設内に意見箱を設け、いろんな意見が反映できるよう努めている。	夜間、戻もちが続いたご利用者に対して、ご家族と一緒に車椅子の使用や立ち上がり補助のベッド手すりについて検討し、より安全に過ごして頂けるよう対応した。面会時には、ご家族と職員が気付きや要望等について話をしよう努めており、互いに提案や協力を求め合う関係ができています。	言葉を表出できないご利用者の思いを、仕草や表情から汲み取る努力はしているが、本当に真意を推し量る事ができているのかと感じる事もあり、今後も思いを汲み取る努力が必要だと考えておられる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、毎日のミーティングの折、職員一人一人の意見や提案を聞き反映している。	職員より、一部の職員の電話対応に課題があるとの指摘があった為、全職員参加し、電話対応についてシュミレーション形式で研修を実施した。運営推進会議では、ご家族より「ホームに電話をした時も皆さん同じ対応をしているので、心掛けているのだと思いました。」との声を頂いており、職員の提案が改善に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、人事考課制度導入前の勉強中の期間である。これにより職員個々の努力や実績、やりがいなど、各自が向上心を持って働ける職場環境づくりにつながる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は極力受講するように配慮しており、職員それぞれの段階に応じて研修受講している。法人内では各委員会が主催する研修会があり、開催日を分け全職員が参加・共有できる工夫をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西海市内のグループホームで結成された「西海市認知症ケア研究会」に所属、毎月1回(第2水曜日)にケア研修などの勉強会を行い、発表や意見の交換を行ったりしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な様子が見られるなど変化がある時は、早目に自然な形で話し合える場を作り、十分話を聞き、受け止め、安心して頂くなど信頼関係は生まれている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常日頃、気兼ねなく何でも相談して頂けるよう接しており、十分な話し合いの機会を設けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いの上で、今何が一番大切か、支援相談員とも相談をしながら見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活活動を一緒に行い、昔話の中から経験を聞きながら教えて頂き、又、一緒にできた喜びを分かち合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折、機械あるごとに近況を詳しく話しており、家族も行事と一緒に参加して頂くなど、お互いに共有し支えあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩の際や島に戻られる時など時間の許す限り会いに来て下さり、季節の行事や身近な出来事など詳しく話して頂き、馴染みの人や場との関係が途切れないよう努めている。	日頃より、ご利用者やご家族とのコミュニケーションを大切にし、ご本人との会話中に出てきたお名前や地名等は、後でその関係や関わりをご家族に確認している。絵手紙教室での作品をご家族へ送付したり、他施設に入所されている奥様と過ごして頂いたり、漁師や造船の仕事をされていた方と海へ出かける等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同郷の方が2組おられ、話も良く合いお互いに支え合っている。又、お互いの意見が通じるよう職員が間に入り、声掛けし、見守り、利用者同士の関係を支援している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、利用者様、職員を訪ねて寄って下さり、一緒にお茶を飲みながら近況を伺ったり、時々、電話でも近況を知らせてくださるなど関係は続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃、本人様や家族様の面会の折に話を伺ったりし、職員全員がカンファレンスや職員会議等で話し合い、その人らしい生活ができるよう努めている。	計画作成担当者はお茶の時間等を利用し、くつろいだ雰囲気の中での1対1の会話を心掛けている。また、ご本人になったつもりで自己紹介をする「インフォメーションシート」を毎月2~3名ずつのご利用者について作成し、ご本人になりきる事でその方の目線に立ち、その思いや意向を考えるよう努めている。	発語が減り、表情も乏しくなったご利用者の思いや意向について、今後も汲み取る努力や工夫をしていきたいと考えている。更なる取り組みに期待していきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食後、お茶の時間など、ご利用者のさりげない日常会話や家族様からの情報収集を元に、サービス計画に取り入れ、経過観察、状態の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方をして頂き、その日の状態を観察、記録し、申し送りなどで現在の状態を全職員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の状況については、常に職員間で話し合っている。本人様や家族様との日頃の会話を通して希望を伺い、あるいは思いをくみ取り、サービスのあり方について職員間で話し合っている。必要に応じ主治医の意見等様々な情報を元に、現状に即した介護計画の作成に努めている。	計画の原案は計画作成担当者が作成するが、職員全員で生活歴やご入居されてからの経緯、ご本人、ご家族の意向を踏まえ、アセスメントシートやインフォメーションシートを活用し、変更、修正している。また、月1回のサービス会議には、法人本部より施設次長に参加頂き、視野が狭くならないよう助言を得ている。	ご利用者の思いを大切にしてニーズ欄に記載されているが、ニーズに合わせた具体的な目標設定を検討されてみてはいかがであろうか。また、短期目標がおおぐりな内容の設定となっている為、目標の設定についても検討されてみてはいかがであろうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入しており、気付いた事は職員間で情報を共有し実践、又はサービス会議の折など、介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で変化があった時など、ご家族、職員間で話し合い、既存のサービスに捉われない柔軟な支援サービスを行うよう努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今のところ、積極的にやっているとは言い難い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望されるかかりつけ医との関係作りに努め、連携をとりながら適切な医療を受けられるように支援している。	協力医院がホームに近く、急変時には休日や夜間でもすぐに往診して下さる。その為、殆どのご利用者が協力医をかかりつけ医とされており、専門医の受診が必要な場合も協力医が紹介状を書いて下さる。通院は基本的にはご家族に依頼しているが、離島在住や高齢の方も多く、ホームで対応することが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は主治医に相談し行っている。受診や往診の際、生活の様子や気づきを伝え、アドバイスを受けた時は職員間で申し送り共有し、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、ご本人、家族様、主治医を交えた話し合いを行い、安心して治療できるように、又、入院中は病院関係者と情報交換や相談を密に行い、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、早い段階からご本人や家族様、主治医と何度も話し合い、全員で方針を共有し医療機関と連携をとりながら、チームとしての支援に努めている。	現在の職員体制やご利用者の状況から、ホームでの看取りは難しいと考えている。ご家族には、入居時に協力医との連携にて対応できる範囲での支援を可能な限り行う事を説明し、ご理解頂いている。重度化が予測された場合は協力医よりご家族へ説明して頂き、医師、ご家族、職員にて話し合いを行いながら、ご本人の状況に応じた医療機関や介護施設の検討等、支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内において、利用者の急変や事故発生時についての研修が実施されている。講義と実践にて全職員研修を受け、身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月第2水曜日に避難訓練を行っている。発生場所、時間を変えて行い、利用者が避難できる方法を全職員で身につけている。万が一の時は、近隣の方々に応援をお願いしている。	毎月第2水曜日を災害訓練の日として、職員の役割分担の確認や避難ルートの確認を行っている。また、火災時には近くの住民の方々に応援に来て頂ける様依頼している。非常用持出し袋に、ミネラルウォーター、インスタントラーメン、タオル、紙パンツ、カットパン、消毒等を入れ、懐中電灯と共にすぐに持ち出せるようにしている。	火災以外の災害を想定した訓練を実施したいと考えておられる。地域の消防団と連携し、夜間を想定した訓練等検討されてみてはいかがでしょうか。ご利用者の安全確保に向けた更なる取り組みに期待していきたい。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員会で作成された禁句集に従い、人権とプライバシーを損なわない声掛けに努めている。特に排泄の声掛け等、本人様だけに関わるよう、お知らせ、誘導している。	「～でよろしいですか?」「～してみませんか?」等、常にご本人の意思を尊重するよう努めている。また、排泄誘導等はご本人だけに聞こえるようにお声かけし、居室への出入りやタンスの開閉も必ずご本人の了解を得ている。姓に「さん」付けでお呼びするよう統一し、ご本人やご家族、第三者が聞いても不快にならないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつの時でも声掛けを行い、必ず本人様に説明し希望を伺っている。あるいは仕草や表情からも思いを読み取り、自己決定に基づいた生活の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビが好きな方は、仲の良い利用者様同士でテレビを見ながら、お話をして過ごされている。読書が好きな方には、新聞や本を好きな場所で(自室でも、リビングでも)自由に見てもらっている。一人一人がそれぞれのスタイルで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や小物類はほとんど家族様が準備して下さるので、それらが一番似合っており、理容・美容もご本人の希望の店に行けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今日は何を食べたいかを尋ねたり、下準備や味見、下膳など出来る事は職員と一緒にしている。職員も同じテーブルで食事を摂り、一人一人の状態を把握し、会話をしながら楽しく食事が摂れるよう対応している。	おやつや郷土料理の作り方をご家族に教わったり、食べたい物を誕生日会の献立に取り入れている。クリスマス会はバイキング料理にする等、行事毎に食材や盛り付けを工夫している。オープンキッチンの為、職員を見て「かせしよか」「自分の事くらいするよ」と、ご利用者も積極的に準備や片付けをされている。	馴染みのない献立でも、「美味しい」と喜ばれる事も多く、様々な料理を味わって頂く為にも献立のレパートリーを増やしたいと考えておられる。心身の状況から、全員での外食が難しくなっている事もあり、食事の新たな楽しみの一つとして期待していきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事毎に個人記録に残し、把握できている。入浴後にも水分補給を促している。希望によって、自室に白湯を入れたペットボトルを置き、いつでも飲めるようにしている。あるいは水分摂取をあまり好まない方へは、果物やゼリーなどで確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後促している。義歯のない方はうがいをし、自力で困難な方は介助にて清潔を保っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しながら、その人に合った誘導、促しを行うよう努めている。尿意がない方へもその人のタイミングを計り、誘導しトイレでの排泄を心掛け支援している。	居室ごとに担当者を決め、個々の排泄リズムを把握しており、体調不良時以外におむつは使用していない。また、失敗をされた時もご本人の心の痛みを和らげる為、片づけをスムーズに行う様に努めている。ご利用者の現在の力を維持していく事を目指し、取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分補給や食物繊維の多いメニューを心掛けている。さつまいも、ごぼう、バナナ、ヨーグルトなどを食事やおやつに取り入れている。又、主治医と連携し服薬の調整を行う。便秘の原因や及ぼす影響についても十分理解している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望する方には、毎日でも入って頂いている。入浴を拒む方には、声掛けや介助の職員を替えたり、時間帯を替えたり工夫している。あるいは声掛けも日にちをあけてみたりもしている。入浴を好む方、そうでない方、その方々に合ったタイミングで入浴して頂けるよう努めている。	現在、特に時間のご希望がない為、15:00から18:00の間にお声かけしながら入浴頂いている。以前、午後は落ち着かなくなられるご利用者に午前中に入浴して頂いており、ご利用者の状況やご希望に応じて対応は変更可能である。冬至にはゆず湯を楽しんで頂いたり、湯温はお一人ずつ好みの温度に調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマ着用については、それまでの生活習慣を尊重し様々である。ベッドではなく、畳に布団を敷きたい方へは、居室の床に畳を並べ布団を敷けるようにしている。又、昼寝の習慣のある方は、どこで寝るかも自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも見れる場所に保管し、変更の際は個人記録、カンファレンスノートで確実に伝達している。錠剤の服用が難しい方に対し、主治医、家族様に相談し、粉状にして頂き無理なく服用できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・接客・掃除・話し相手様々な役割を持って頂いている。外気浴やレクで体を動かすなどして気分転換を図っている。又、おやつ時は好みの物を選んで頂けるよう、飲み物やおやつをいくつか用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、散歩、買い物などを取り入れている。玄関先での外気浴を皆さんで楽しむこともある。行事を通じて他の利用者や家族様と一緒に出掛ける機会を作っている。また、家族様の協力で、普段は行けない所へ連れて行かれる場合もある。	食材の買い物に近くの商店や大島のスーパーへ出かけている。また、行きつけの美容室や自宅への送迎支援のほか、ちゃんぽんを食べに出かけることもある。時には海を眺めに行ったり、他施設へ面会に行く等、個別の外出支援も行っている。「以前は散歩しているのをよく見かけた」とのご意見から、お茶の時間をホーム玄関前でいい外気浴を楽しむ等、外出が難しくとも日常的に外へ出る工夫を行っている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が家族様へお任せしていたり、金銭管理が困難であり、家族様希望にて所持している方はいないが、通帳を所持している方がいる。時々職員と一緒に記帳に行き、金額を確認して安心されている。利用者様が買いたい物がある時は、その都度家族様にへ相談し立替金として購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自ら番号を押しかける事は困難だが、いつでも電話ができるようにしている。利用者様から申し出がなくても、時々こちらから家族様へ電話をし本人様とかわったり、家族様から電話があった際にも、できるだけ本人様にかわり会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは全体的に明るく、利用者様、職員の会話も穏やかで外からの騒音もなく、生活音が心地良い雰囲気である。季節の花を飾ったり、絵手紙を展示している。	天候や日差しを見ながらご利用者に合わせた空調を行っている。リビング横の和室は、日当たりが良いせいか、冬場でも朝方しか暖房の必要はないが、逆に夏場はヨシズを使用して陽射しを和らげている。壁面飾りを毎月替えており、「これを見るのが楽しみ。」とご家族の声もある。臭いゼロ作戦の取り組みにて、換気の徹底や残菜・残飯の処理をこまめに行う等の配慮を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓辺にはソファや椅子を置き、いつでもどこでも座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様にも相談、協力してもらい、以前使用されていた家具や置物などを持ち込んで頂いている。布団も使い慣れたものであり、好みで電気シーツを使う方やテレビを自室に設置している方もおられる。畳の希望にて床に畳を敷き詰め、和室の感覚で居心地よく過ごして頂いている。	高台の為か、陽射しを遮る物がなく各居室ともに明るい。ご入居時にご家族と相談し、使い慣れた品を持って来て頂く様にしている。離島の方が多く、島から運ぶ大変さはあるが、ご家族にもご協力頂いている。テーブルと椅子のセット、ダンス、日本人形等の置物がそれぞれの部屋に持ち込まれ、思い思いに配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、洗面所などに利用者様の使い勝手を考慮した手すりの設置と、それぞれの場所を示す貼り紙をして案内をしている。利用者様によっては室内にも手すりがあり、自立や安全につながる配慮を行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	目標設定がおおぐりな内容になっている。	・ニーズに合わせた具体的な目標を設定する。	①1日の生活時間帯や場면을細かく区切り目標設定をする。 ②ポイントをしばって取り組む。	12 ヶ月
2	40	・全員揃っての外出が難しく、所内での食事がほとんどになっている。	・外出ができる人だけでも、外出を楽しんで頂く。 ・献立のレパートリーを増やす。	①屋外でバイク方式で食事をする。 ②外出できる人へ個別の対応を検討し、外出の機会を設ける。また、外出が難しい人へは玄関先を利用するなど場所や雰囲気を変えて食事を楽しんで頂く。 ③職員一人一人が一品でもレパートリーを増やす。	12 ヶ月
3	10 23	・意思表示が難しい方、コミュニケーションが困難な方に対し、その都度読みとるようにしているが、本当にそうなのか、更に深い真意を探る。 ・その方の生活歴や性格を踏まえて、そこから真意を推察することはできないか。	・意思表示やコミュニケーションが困難な利用者様の思いや意向をくみとる。	①インフォメーションシートの項目を見直して再度取り組む。 ②ご家族様からの情報を得る。 ③排泄、食事、疾病、行動等色々な角度で観察する。	12 ヶ月
4	35	・地震、台風、集中豪雨などの災害が考えられるが、避難訓練においては火災だけしか行っていない。 ・毎月、避難訓練を行っているが、日中を想定したものがほとんどになっている。	・火災以外の災害時の対応を全職員が身につける。 ・夜間を想定した避難訓練を実施する。	①市町村や消防署へ災害時について尋ねる。 ②災害に対する意識を高めるため、万が一の時の対応の再確認のため、勉強会を行う。 ③全職員が「自分の夜勤の時」と想定し、避難訓練を行う。 ④地元の消防団との連携のため、訓練への参加協力を自治会長さんに相談し、一緒に検討する。	12 ヶ月
5	2	・地域行事へ参加しているが、地域の方へはホームの事をどの位知ってもらっているか。出掛けていっただけではなく、ホームへ来て頂くことができないだろうか。	・地域の方へ施設見学を提案する。 ・気軽に来て頂けるような行事を計画し、お誘いする。	・自治会長さんと共に見学会やホームでの行事への参加について検討する。	12 ヶ月